

マダコ増養殖の実現へ！安定した種苗生産技術の開発

マダコは、県内では国東半島沿岸域を中心に、“たこ壺”や“かご”等で漁獲されています。しかしながら、漁獲量が減少傾向にあり、漁業者からは種苗放流の要望が出てきています。また、国内漁獲量の低迷や輸入量の減少といった状況も重なり、マダコを取扱う業界からは養殖を期待する声もあります。



図1. “たこ壺”で漁獲されたマダコ

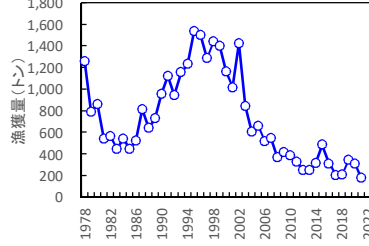


図2. 大分県における“たこ類”の漁獲量  
引用：農林水産省海面漁業生産統計調査

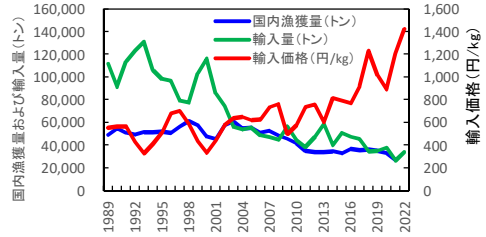


図3. “たこ類”の国内漁獲量、輸入量および輸入価格の推移  
引用：(国内漁獲量)農林水産省海面漁業生産統計調査、(輸入量・輸入価格)財務省 貿易統計

【研究のポイント】

《マダコ種苗生産の長い歴史》

1960年代以降、国内の各機関がマダコ種苗生産に取り組んできましたが、マダコ種苗を生産した事例は数えられる程度で、種苗生産は困難とされてきました。

そのような中、2017年に(国研)水産研究・教育機構がマダコ用の水流飼育装置の開発、高成長・高生残を可能とする餌料(ガザミ類の心化幼生:ソエア)の探索に成功しました。

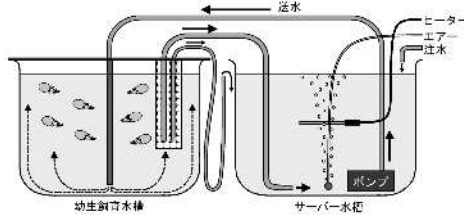


図4. マダコ種苗生産に使用する水流飼育装置  
引用：(團)2021「マダコ幼生の行動特性に基づいた種苗生産技術の開発」

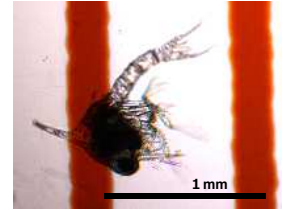


図5. ガザミ類のソエア幼生

当グループでは令和3年度から「イノベーション創出強化研究推進事業」に参画し、水流飼育装置およびソエア幼生を使用してマダコ種苗を安定生産する技術開発に取り組みました。

《マダコ種苗生産の工程》

1. 産卵用親ダコの確保・飼育



2. 親ダコを活用した卵管理および卵の発生状況の観察



3. 心化幼生の確保



4. 水流飼育装置を活用した種苗生産



5. 生産した種苗の取上げ



《マダコ種苗生産結果 (R3~R5)》

年	生産個体数
R3 (2021)	1,045
R4 (2022)	1,064
R5 (2023)	2,045

3年連続で種苗の取上げに成功!

【研究の成果】

令和3~5年度(3ヶ年)にマダコ種苗生産に取り組んだ結果、マダコ種苗の取上げ個体数を年々増加させることができました。一方で、この生産で給餌した餌料には、天然で漁獲された抱卵ガザミを入手して心化させたソエア幼生を使用しており、天然のガザミ資源への影響が懸念されるため、ガザミのソエア幼生に代わる餌料の探索等の課題が残されています。

近い将来、マダコ種苗の量産化技術や養殖技術が開発されれば、種苗放流による栽培漁業の取組や新たな養殖業の創出が実現できると考えています。

【生産者の声】



大分県漁協くにさき支店  
井上 泰広 支店長

国東地区ではマダコは重要な漁獲対象種であり、市場でも高い評価をいただいています。マダコの漁獲が減少している状況の中、マダコの種苗生産が成功したとのことで、今後の資源増大や新たな養殖に繋がるよう期待しております。

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 水産研究部 北部水産グループ 資源増殖チーム  
TEL：0978-22-2405  
住所：豊後高田市呉崎3386番地